

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

260

行旅死亡人取扱事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	9	将来に向かって希望の持てる福祉社会の形成
施策	4	社会保障制度の充実
取組方針	1	生活困窮者自立支援制度及び生活保護制度の適正な実施

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務		法定受託事務	○
	その他			
会計・ 予算区分	会計	一般会計		
	款	民生費		
	項	生活保護費		
	目	生活保護総務費		
	大事業	生活保護総務事業		
中事業	行旅死亡人取扱事業			

事業種別	継続		関連個別計画			
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel	生活保護課	久保 有史 435-1061
事業実施の根拠法令	生活保護法		関連課	生活支援課		

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要			
	行旅死亡人を引取り、告示及び官報に登載することで身元判明を図る。		行旅死亡人の検案料及び火葬までの経費の支出。 身元不明者の官報登載及び公告。 以下の事務を委託。 警察からの検案死体引取依頼→死亡届を提出し、火葬後、遺骨を安置→官報登録及び告示を依頼			
事業内容		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度
		行旅死亡人を引き取り火葬し、遺族が判明した場合は遺骨を引き渡し、身元不明者については市内の寺院に納骨する。	行旅死亡人を引き取り火葬し、遺族が判明した場合は遺骨を引き渡し、身元不明者については市内の寺院に納骨する。	行旅死亡人を引き取り火葬し、遺族が判明した場合は遺骨を引き渡し、身元不明者については市内の寺院に納骨する。	行旅死亡人を引き取り火葬し、遺族が判明した場合は遺骨を引き渡し、身元不明者については市内の寺院に納骨する。	行旅死亡人を引き取り火葬し、遺族が判明した場合は遺骨を引き渡し、身元不明者については市内の寺院に納骨する。

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和02年度		
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算	
事業費	746	228	746	839	746	532	727	0	727	0	
伸び率(%)	△28.5%	△16.8%	0%	268%	0%	△36.6%	△2.5%	△100%	0%	0%	
人件費	正規職員	7,948	8,028	7,897	7,817	7,833	7,593	7,593	0	7,593	
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	小計	7,948	8,028	7,897	7,817	7,833	7,593	7,593	0	7,593	
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
その他	180	0	180	7	180	223	180	0	0	0	
一般財源(税等)	566	228	566	832	566	309	547	0	727	0	
所要人数(人)	正規職員	1.00	1.01	0.99	0.98	0.98	0.95	0.95	0.00	0.95	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	・手数料 247千円 ・行旅死亡人運搬委託料 499千円										

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和02年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
受付件数	件	目標値		2	12	4	5	5
		実績値		2	12	4		
		達成度(%)		0%	0%	0%	0%	%
取扱件数	件	目標値		2	12	4	5	5
		実績値		2	12	4		
		達成度(%)		0%	0%	0%	0%	%

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要はあるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度		重要かつ高い貢献度がある	○	一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	今後の事業の方向性については、現状のまま維持継続。
見直し・改善内容	現状のまま継続